



## 『理大白書—データを中心として—』（平成24年度版）の刊行にあたって



『理大白書—データを中心として—』は、本学及び法人の歴史に加え、教育・研究・財務等の本学の状況を示す各種データを中心に掲載することで、各部局や各部署等において、データから明らかになる取り組むべき課題を明確にし、絶えず改善に努めるために活用する際の一助とすることを目的としている。

大学教育に対する社会の目は厳しく、平成23年に新聞社が行った調査では、大学は6割強がグローバルに対応した人材を育成しておらず、社会が求める人材も育成していないとの結果が出されている。さらに、平成19年に行われた「全国大学生調査」によると、我が国の大学生は、諸外国と比べ学修時間が非常に短いという現状も明らかになっている。これらを受け、中央教育審議会が平成24年8月に取りまとめた「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」においては、学生の主体的な学修を支え、教育の質的転換を図るために、大学、大学支援組織、文部科学省等、地域社会・企業等がそれぞれ対策を講じることが求められている。

あらためて言うまでもなく、大学の使命は、教育・研究の成果を社会に還元し、社会が要請する有為な人材を輩出することにある。「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との建学の精神に立ち返り、わが国の持続的発展に貢献する有為な研究者・技術者・教育者の育成に向け、引き続き、全教職員一丸となり努力をしていかなければならない。

本書が本学の改善・改革につながる一助となれば幸いである。

平成25年2月  
学校法人東京理科大学  
理事長 中根 滋